

学ぶ、遊ぶ・
おとなの生き方学校



◆ プラチナスクールとは？

人生の円熟期を迎えてなお、プラチナのようにいつまでも色あせずに輝き続ける元気でアクティブなシニアのための学校、それが「プラチナスクール」です。

◆ プラチナ◆スクール
PLATINUM SCHOOL



「全国平均なので地方では実態がやや異なります。もらっている年金額にもよりますが、毎月かかる生活費はもっと低めのご家庭が多い」とのこと。収入で足りない分を貯蓄で賄い、すべて使い切らずに余裕を持って貯蓄できれば理想的ですが、日本人の

内閣府が行った「高齢期に向けた『備え』に関する意識調査」(平成25年)によると、「高齢期の生活で大切にしたいこと」のトップは「趣味や勉強」。一方で「高齢期に備えて大切だと思われたいこと」は「健康維持・体力づくり」と答えた人が8割以上に上ります。趣味や勉強は生きがいとなるものですが、年齢とともに体が思うように動かなくなってくるのも事実。そして生きがいを楽しむにも健康を維持するためには、リタイア後はどれだけの

お金が必要なのでしょう。

総務省の「家計調査年報2014年」によると、夫婦無職のリタイア世代の月平均収入は、公的年金など20万7347円に対し、支出は26万8907円。6万1560円の不足が生じます。ただし、星さんいわく、

平均寿命は男性80・21歳、女性86・61歳。「生きていく間にお金が足りなくなるかも」と心配のあまり、生活を切り詰め、生きがいを楽しめなくなってしまうのも寂しいものです。

長い老後を限られた収入と貯蓄で暮らしていくのは不安が

いっぱい。「大切なのは、自分のライフプランに基づいてお金の使

いみちを考えること」と星さん

は語ります。健康なうちは趣味

やレジャー、介護が必要になれば

医療や介護サービスなど、ラ

イフステージに合わせてお金の

使いみちも変わります。日常生

活に「かかるお金」は、毎月の定

期収入でやりくりし、自宅のリ

フォームや車の買い替え、旅行、

子どもへの援助などに「かける

お金」と、病気や介護に「備える



シニアのためのマネー講座
どう生きる？ どう暮らす？
シニアのお金の使いみち

お金の時間

2月17日、ファイナンシャルプランナーの星洋子さんを講師に迎え、北海道新聞社1階のイベントスペース「DOORBOX」で「プラチナスクール」が開催されました。今回のテーマは、セカンドライフを支えるお金の話。誰もががずれ直面する問題とあつて、約150名の応募者の中から当選した60名の皆さんは、真剣に耳を傾けていました。



星 洋子
FPオフィス・スターサポート代表。
CFP®、一級FP技能士、
2級DCプランナー、
くりやまライフサポーター事業応援FP、
安平町未来創成委員会外部メンバー

考えてみましょう！ 老後の収入と支出

(総務省「家計調査年報2014年」より) 単位:円

●収入		夫婦無職	単身無職
月平均額	公的年金等収入計	207,347	112,207

●支出		夫婦無職	単身無職
月平均額	項目		
消費	食料	60,869	33,493
	交際費	28,749	20,453
	交通・通信	26,825	13,412
	教養・娯楽	25,968	16,257
	光熱・水道	21,042	13,643
	住居	16,158	13,607
	保健医療	14,635	7,606
	家具・家事用品	9,788	5,592
	被服・履物	6,940	4,402
	その他	28,511	14,798
非消費	税金・社会保険料	29,422	10,461
支出合計		268,907	153,724

収入-支出		夫婦無職	単身無職
		-61,560	-41,517



ライフプランに合った
お金の使いみちを考える

期収入でやりくりし、自宅のリフォームや車の買い替え、旅行、子どもへの援助などに「かけるお金」と、病気や介護に「備えるお金」は今と将来の暮らし方を踏まえて決めましょう。高額医療や高額介護の自己負担限度額(70歳以上の一般所得者で年額56万円)や、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの情報も知っておくと、いざという時役に立ちます。葬儀費用や財産分与などの「残すお金」も使いみちのひとつ。元気なうちからご夫婦や身内で話し合っておくことをお勧めします。「お金は、使いみちを決めることで目的を支える頼もしい存在になります。年金や貯蓄は、今まで頑張ってきた大切な証し。お金が喜ぶ有意義な使い

方をしてください」と星さん。参加者の皆さんにとって、お金の通して生き方や暮らし方を見つめ直すきっかけとなったようです。

Advice

- 将来のお金の使い方は、心身ともに元気うちに決めましょう。
- 情報収集は大事。第三者の意見にも耳を傾けて。
- 身内や友人、ご近所の存在は、いざという時、心の支えになってくれます。ともに心豊かな老後を迎えられよう、日頃のお付き合いを大切にしてくださいね。